

資料編

小学部1段階の国語と算数の内容を学習する児童・生徒における言語能力の育成に関する指導内容の段階表(試案)

資料1

概念形成	1-1				1-2				1-3				
	物の有無に気付く	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念
概念形成	空間・位置・方向・物の概念	机上の把握しやすい空間で操作する	机上の空間で操作する	積み木を上へ置く	机の上から、下から置く等ができる 3個まで	左から、下から置く等ができる 3個まで	左から、下から置く等ができる 3個まで	左から、下から置く等ができる 3個まで	左から、下から置く等ができる 3個まで	左から、下から置く等ができる 3個まで	左から、下から置く等ができる 3個まで	左から、下から置く等ができる 3個まで	左から、下から置く等ができる 3個まで
	認知・操作	物の有無に気付く	机上の把握しやすい空間で操作する	机上の空間で操作する	積み木を上へ置く	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念
		物を見る	机上の把握しやすい空間で操作する	机上の空間で操作する	積み木を上へ置く	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念
言語(受容・表出)	物を見る	机上の把握しやすい空間で操作する	机上の空間で操作する	積み木を上へ置く	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	
	物を見る	机上の把握しやすい空間で操作する	机上の空間で操作する	積み木を上へ置く	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	空間概念	

※児童・生徒の実態に応じて、指導内容の順序が入れ替わる場合もある。

		2-1		2-2		2-3	
		小学部 国語と算数 2段階 (小学部2段階・知的障害の程度は、1段階ほどではないが、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのに頻繁に援助が必要である者)					
概念形成	空間概念	空間・位置・方向・物の概念	空間概念 上中下 左右	数の多少 5個まで	合成分解 5まで	数の多少 10個まで	合成分解 10まで
	概念形成	順序 左から、下から置く等ができる (5個まで)	順序 左から、下から置く等ができる (10個まで)	数の1対1対応 3個まで	数の1対1対応 5個まで	数の1対1対応 10個まで	数の意味が分かる
認知・操作	物を見比べる	未測量 2つの比較(大小 長短)	未測量 2つの比較(多い少ない 重い軽い 高い低い 広い狭い)	「同じ」の概念形成 絵と線(身近な物)	「同じ」の概念形成 絵と線(身近な物)	単語構成の導入 1文字 「て」「め」「は」等	単語構成 絵を見て文字カードを構成する 2文字・3文字 「いす」「つくえ」等
	目と手の協応	形を比べる 視線を動かして見比べる	形を比べる 2つの形を合わせ見本と同じ一つの形にする	「同じ」の概念形成 具体物と絵カード	文字の導入 絵と単語カードのマッチング(名前など身近な物)	目と手の協応 なぞり書き(平仮名)、手本と同じ平仮名を枠の中に書く	
言語(受容・表出)	手指の巧緻性	手指の巧緻性 クレヨンなどを持つ なぞり書き(直線、曲線)	手指の巧緻性 2つの形を枠に入れて形を作る	手指の巧緻性 筆記用具を正しく持って書く	手指の巧緻性 筆記用具を正しく持って書く	手指の巧緻性 いろいろな筆記用具を用いて書く	
	音・言葉	言葉の理解 色の名称、表情、気持ち	言葉の理解 絵本等の場面の簡単な理解	遊びや取り取りを導いて言葉で表現する	言葉の理解 3、4語文の指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をする 「○○してから△△する」「○○で△△を□□する」	言葉の理解 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりする	言葉の理解 身近な人との会話を通して、物の名前や動作などの言葉を聞いたり使ったりする
言語(受容・表出)	言葉の理解	言葉の理解 簡単な事柄と語句などを結び付ける 言葉聞いて関連する事柄を思い浮かべる 「ケーキって何?」→「甘い、クリーム、誕生日、食べる」	言葉の理解 言葉の理解(簡単なクイズ) 色、形、用途などいくつかのヒントから絵を選ぶ 「赤くて丸い食べ物はどれ」(スリーヒントゲーム)等	言葉の理解(疑問) 質問に応じて答える「いつ」「だれが」「どこで」「何を」等	言葉の理解(属性) 指示を聞いて絵を選ぶ 「果物はどれ」「乗り物はどれ」「動物はどれ」等	言葉の理解(属性) 指示を聞いて絵を選ぶ 「果物はどれ」「乗り物はどれ」「動物はどれ」等	
	言葉の表現	言葉の表現 短文復唱(主題述語程度の短い文を聞いて復唱する)	言葉の表現 体験したことを、時間の経過に沿って思い出し伝えてみようとする	話す 相手に伝えたいことを知っている言葉にあてはめようとする	話す 挨拶をする、日常生活や遊びに必要な簡単な言葉、台詞等を使う		

※児童・生徒の実態に応じて、指導内容の順序が入れ替わる場合もある。

個別指導のポイントチェックリスト【指導計画編】

作成日 令和 年 月 日
 都立 特別支援学校
 学部・学年
 児童・生徒名
 教 員 名

項目	チェック	観点	把握した内容等
1 実態を把握する	運動機能		
	<input type="checkbox"/>	利き手の確認	
	<input type="checkbox"/>	目の使い方	
	<input type="checkbox"/>	手首、腕の使い方	
	<input type="checkbox"/>	指の使い方	
	<input type="checkbox"/>	姿勢の様子	
		その他	
	感覚の様子		
	<input type="checkbox"/>	聴覚が過敏 又は鈍感	
	<input type="checkbox"/>	触覚が過敏 又は鈍感	
		その他	
	見え方の特性		
<input type="checkbox"/>	有効な視空間		
YES、NOの表出			
<input type="checkbox"/>	言語又はサイン等		
その他			
<input type="checkbox"/>	表情の変化		
<input type="checkbox"/>	集中できる時間		
<input type="checkbox"/>	できること・好きなこと		
2 指導目標を決める	<input type="checkbox"/>	把握した実態	
	<input type="checkbox"/>	興味・関心	
		【指導目標】	
3 指導内容を決める		【指導内容】	
4 教材や補助具等を作成する	<input type="checkbox"/>	構造、形状	
	<input type="checkbox"/>	色	
	<input type="checkbox"/>	素材、手触り	
	<input type="checkbox"/>	大きさ	
5 環境を設定する	<input type="checkbox"/>	机の高さ、大きさ	
	<input type="checkbox"/>	いすの高さ、形状	
	<input type="checkbox"/>	指導者との位置関係、配置	

個別指導のポイントチェックリスト【指導実践編】

【主な指導内容】

作成日 令和 年 月 日
 都立 特別支援学校
 学部・学年
 児童・生徒名
 教員名

1:改善が必要である 2:ややできている 3:できている

項目	観点	評価	自由記述 (児童・生徒の様子、課題や改善策等)
1 環境、姿勢を整える	机、いすの調整をしたか		
	目や手が使いやすい姿勢を整えたか		
	開始時に机の上に物が無い状態にしたか		
2 児童・生徒の発信を把握する	目の動きを見たか		
	手や指の動きを見たか		
	表情の変化を見たか 児童・生徒の発信を見逃さなかったか		
3 教材を適切に呈示する	音や言葉掛け、ポインティング等で注目をひいたか		
	児童・生徒が見ているタイミングで呈示したか		
	有効な視空間に呈示したか		
	呈示するスピードは児童・生徒に合っていたか		
	ゆっくりと児童・生徒の反応を確認しながら触らせたか		
	スモールステップで呈示したか 撤去は(教材をしまう)タイミングよくできたか		
4 適切に言葉を掛ける	肯定的な言葉掛けをしたか		
	言葉を精選したか		
	言葉掛けは統一されていたか		
	声のトーン、テンポは適切だったか		
	言葉を掛けるタイミングは適切だったか 実態に応じて言葉掛けを徐々に減らしていったか		
5 適切に援助する	腕や手を援助する身体的援助は適切だったか		
	援助する力の加減は適切だったか		
	援助を実態に応じて意図的に徐々に減らしていったか		
6 適切に正解を教える ※間違いをさせない援助をする	正解に導く身体的援助がタイミングよくできたか		
	正解に導くポインティングがタイミングよくできたか		
	正解に導く言葉掛けがタイミングよくできたか		
	間違いをさせないスモールステップの呈示や援助ができたか		
7 よく褒める	タイミングよく褒めたか		
	児童・生徒に合った伝わる褒め方ができたか		